

教科(科目)	現代文B	授業者	青ちづる
日時	平成 28年 9月 5日(月) 第4限	対象・場所	2年8組・教室
単元	意見文を書こう		
本時の位置	全1時間中の1時間目		
本時過程	<p>1 グループ4名とし、お互いに添削しながら意見文を書く。</p> <p>テーマ「相模原の障害者殺人の犯人が主張している『障害者は社会のお荷物だ』という考えについて説得力のある反論をなさい」</p> <p>すべてグループの活動</p> <p>① ワークシートを用いて、「社会のお荷物」の意味するところと、その考えの問題点を話し合う。問題点は4つ考えさせる。</p> <p>② ①をもとにそれぞれ200字以内で意見文を書く。その際、それぞれ違う問題点について説明する。表現などは、グループ内で相談して良い。</p> <p>③ グループで回収し、隣のグループに回す。受け取った方は、4人分を回覧し、良いと思った意見文にシールを貼る。シールは一人2枚配ってあるが、同じ人に2枚貼っても良いし、別の人に1枚ずつ貼っても良い。貼り終わったら、もとのグループの人に返す。</p> <p>④ 戻ってきた自分の意見文を読むとともに、グループ内で一番多くシールが貼ってある意見文を回覧する。</p>		
反省	<p>形にこだわると前回のような失敗を招くので、学習効果を第一に考えて改善した。</p> <p>1 前回の反省を生かし、200字を一回書くこととした。時間的にはちょうどよかった。</p> <p>2 今回は、他の人の意見文に対して細かいアドバイスを書かせるのではなく、まず、自分がきちんと書くことに重点を置いた。そのため、書く前の話し合いに時間を割いたが、その方が生徒の実情に合うように思われた。</p> <p>3 ルーブリックを用いるのではなく、書く前に評価規準を示しておくにとどめた。生徒が行う評価は、良いと思うものにシールを貼るという形にした。生徒にとっては、わかりやすい方法であったと思う。課題としては、提出させてから教師がつけた評価とかなり違っているという点である。「説得力のある」というのがどういうことなのか、今後も継続して指導する必要がある。</p> <p>4 テーマはタイムリーでもあり、さまざまな意見が出ていたが、優生思想の危うさのあたりまで書けた生徒はほとんどいなかった。新聞記事をいくつか読ませ、事後指導したい。</p> <p>5 問題点を話し合うところが一番活発であった。思考の深まりを求めるなら、話し合いは欠かせないと感じた。</p>		

意見文を書く 1 ワークシート

二年 組 番 ( )

班員

--	--	--

テーマ 相模原の障害者施設で、多くの障害者を殺害した犯人は、「障害者は社会のお荷物だ」という発言をしている。この考え方について説得力のある反論をなさい。

1 まず「障害者が社会のお荷物」とはどういう意味か考えよう。

--

2 その考え方の問題点をグループで話し合ってみよう

--

3 1と2をもとに200字以内で意見文を書こう。段落は二段落まで。

書き方 まず、自分の立場をはっきり述べる  
次に、その理由を説明する

☆評価項目

- A 正しい表記や表現が用いられている
- B 自分の立場を明確にして反論できている
- C 説得力のある理由が述べられている

# 評価シート

二年 組 番 ( )

☆自分の意見文について、次のA～Cの各項目を評価してみよう。次に、班の人に評価してもらおう。

## 項目

- A 表記や表現に間違いがないか  
間違いなく書けている 1 3 5
- 1～2カ所に間違いが見られる 1 3 5
- 3カ所以上に間違いが見られる 1 3 5

- B 根拠に説得力があるか  
根拠に説得力があり、誰もが納得できる 1 3 5
- 根拠としている部分伝わり、おおむね納得できる 1 3 5
- 根拠がわかりにくく、納得しにくい 1 3 5

- C 2回目の方が思考が深まっている 1 3 5
- 1回目と2回目は同じ程度の思考の深まりである 1 3 5
- 2回目の方が思考が浅くなっている 1 3 5

評価する人	A	B	C	合計
自分				
さん				
さん				
さん				